

## 国立京都国際会館における「京都らしい設え」のコンセプトについて

## 伝統文化の本質・精神を踏まえ、革新を創造する

- 蓄積された技など京都が持つ潜在的な力を理解し、引き出して、新たに創造する。
- 建物自体が持つ構造の美しさをいかす設計を心がける。
- 時とともにその味わいを深めていく材料を用いる。
- メンテナンスがしやすく長期的に美しさを保てるデザインを行う。
- 可変性に配慮することで、いつの時代にも使いやすい建物を目指す。
- 京都の伝統工芸を建築と一体化しつつ、今の時代の新しい表現を創造する。
- 真の「もてなし」の心を表現する場を与える。

## 自然との共生を体現する

- 周囲の豊かな自然環境や景観を大切に設計を行う。
- 自然とともに暮らしてきた日本人の精神を体現する。
- 自然の力を用いて、快適に過ごせる空間をつくる。

## 多様性のある豊かな空間を創出する

- 日本建築の場の構成に倣い、外部から内部への場面展開を「庭」→「縁側」→「入側」→「座敷」と捉え、各空間に特徴を与えることで、空間に多様性が生まれ、長期間滞在しても飽きない豊かな空間構成とする。

相互調和

## 既存建築との調和と革新



## 豊かな自然環境に協調するデザイン



## 多様性のある空間構成～日本建築の場の構成～

